



定期刊行 毎月10日
1部8円
 発行人 村上智志
 編集責任 情宣
 〒981-8545
 仙台市青葉区柏木一丁目2-45
 宮城県教職員組合
 電話 (234) 0141・4161
 FAX (274) 2130
 E-mail miyakyoso@mtu.or.jp

号外

分会長・学校長様 至急回覧を
 教育長・課長交渉速報 二枚組
 2015年11月9日 発行:宮教組

宮教組、35人学級・多忙解消を強く要求!

県教委 独自の35人学級に難色 「調査37(140から103へ)・会議16(66から50へ)削減」

11. 2教育長交渉速報

11月2日に宮教組、高教組合同による県教育長・課長交渉が行われました。交渉には40名(宮教組23名)が参加。長年、両教組が要求してきた「35人学級」の問題について、県財政を理由に前向きな回答はありませんでした。しかし、多忙化問題では、現場からの切実な要求に応じて「調査37(140から103へ)・会議16(66から50へ)削減した」と、やや前向きな回答がありました。宮教組は、引き続き折衝し、早期に35人学級と多忙化解消が実現するよう運動を強めていきます。



強く迫る村上委員長

東北各県は既に3~4年生まで35人学級にしている。宮城県は少人数学級が東北で一番遅れている。国任せではなく県独自で対応すべきだ。(県内3市町で独自に実施)

①県教委「財政が厳しい。拡充は国へ要望していく」

「宮城は中学校の不登校出現率で全国ワースト。いじめ件数も多い。解決するためにも、少人数学級の実現が急務だ。」との宮教組の追求に、教育長は「本来国がやるべきことであるので、伝えていきたい」との態度に終始しました。また、小学校3年生だけ35人学級にするのに66学級増で5億円でできることが明らかになりました。

②多忙化問題では 支援チーム等で現場の声を聞く

宮教組からの「岩手や仙台市などで、安全衛生委員会があり、当然組合員も入っている」という訴えに対し、教育長は学校運営支援チームで現場の声を聞いていたり養護教員の安全衛生担当者会議で話し合っていると答えましたが、組合は教職員の参加を訴えました。また教育長は「校務支援システムの導入や、SCやSSWも増やしている。」と回答しました。



被災した1年生も6年生になった。失った時間は取り戻せない。復興加配が講師のため、病休の講師も来ない。複数年の配置が是非必要!(鳴瀬桜華小・渡辺)



現場は多忙のため勤務時間があつて無いようなものだ。労働法の「安全配慮義務違反」ではないか。守られないのはなぜか!(大平小・高橋)



前期選抜の割合を変えても、後期選抜の合格者枠を狭くしただけだ。評定値で足りているのは全国でも宮城県だけだ。前期選抜を直ぐにでも廃止すべきだ!

(小原中・高木)